

特集

解任騒動で揺れる

旭川医大

渦中の吉田学長が沈黙破る

裁判で争う
考えはない

——現在、文部科学省には吉田学長による「辞任届」と旭川医大の学長選考会議からの「解任の申し出」の2つが提出されています。一部報道で吉田学長は、解任になっても裁判で争う考えはないことが報じられていますが、本当ですか。

慶友会吉田病院のコロナ感染患者の受け入れ拒否がきっかけとなり、旭川医科大学では吉田晃敏学長の解任請求にまで発展したことは周知の通り。

解任騒動でメディアの取材に応じず、長い間沈黙を守り続けてきた吉田学長だったが、9月29日、本誌のインタビューに応じ、その胸の内を語った。

(本誌・対馬 優雅)

旭川医大と吉田晃敏学長



の判断は、ずうっと先になるかもしれない。

——学長選考会議が解任の決議をする前に、吉田学長が文科省に辞任届を提出したのは、解任だと退職金をもらえないから先手を打った、という見方がありますが、それについては。

——そんなことはまったく考えていません。「解任するかどうか」という考えです。私は国際レベルでいろいろなことをやってきたのに、学長選考会議が請求している解任の理由には「酒を飲んだ」とか、くだらないものもあります。文科省は、そんな理由を採用しませんよ。私がつと大きなことでミスしたのであれば採用されるけれど、いずれにしても文科省

の東京での領収書まで持ち出して「飲んだだろう」とか……

それは言えません。就職活動はしてません。次の人生は道北道東の医療の確立に携わりたい。

一方的に私が悪者扱い

——きっかけとなった吉田病院でのコロナ感染患者に対する受け入れ拒否については。

それは言えません。準備もできてないので断りました。それから11月13日の2回目の3人についても病床が空いて

一方的に私が悪く報じられました。私がコロナ患者を断ったのは、1回目は昨年の11月8日で吉田病院からの1人。その時はうちの病院は、90%以上の病床稼働率だから受け入れ

——今、お酒は控えているのですか。

控えていますよ、もちろん。控えているというか、私はそんなにバカみたいに飲まないから。それなのに20年前



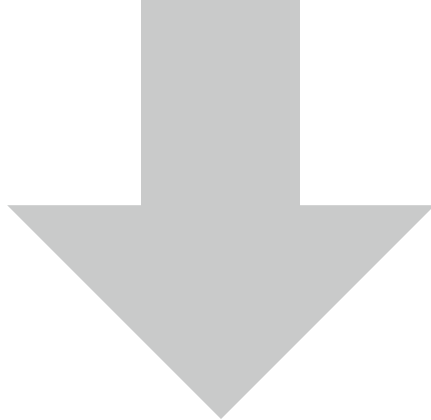
▲古川博之前病院長

受け入れ体制というのは、1つの病棟をまるごとコロナ病棟にしなければできない話なんです。そういうことをやらないと看護師さんや他の患者さんは感染します。当時私が受け入れを断っておよそ600人の入院患者を救ったのは最大の貢献だったと思っています。

もし300人が感染して100人の死亡者が出たら、その時点で私はアウトですよ。それが病院の開設者である私の立場なんです。その下に病院長がいて、病院長は病院の運営者だから役割が違います。あの場合が私が「ドクターストップ」をかけなければならなかったんです。

旭川医科大学病院の病院内には抗がん剤や免疫抑制剤をやっているがんの患者さんがたくさんいるんです。心筋梗塞の患者さんだったりいくらかでも受け入れられますが、そうではないんですよ。

——当時の古川博之病院長は「コロナ患者の受け入れ準備はできていた」と言っています



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)